

資料60-4

科学技術・学術審議会
研究計画・評価分科会
宇宙開発利用部会
(第41回)R3.2.9

国際宇宙探査及びISSを含む地球低軌道を巡る 最近の動向

2021年2月9日

文部科学省研究開発局

宇宙開発利用課 宇宙利用推進室



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

若田宇宙飛行士及び古川宇宙飛行士 国際宇宙ステーション（ISS）長期滞在の決定について

- 令和2年11月20日、若田光一宇宙飛行士が2022年頃に、古川聡宇宙飛行士が2023年頃にそれぞれISSに長期滞在することが決定されたので報告する。
- 両氏は、米国の商業宇宙船（クルードラゴン又はスターライナー）への搭乗を予定。

若田宇宙飛行士について



若田光一
博士(工学)

- 5回目の宇宙飛行（長期滞在は3回目、2013年にISS船長）
1992年、飛行士候補者として選定、前職は航空整備士
(参考) 1回目：1996年、スペースシャトルにて人工衛星の回収
2回目：2000年、スペースシャトルにてISSの組立て
3回目：2009年、スペースシャトル搭乗、ISS長期滞在、きぼう組立て
4回目：2013年、ソユーズ搭乗、ISS長期滞在、日本人初のISS船長
※この後、JAXAのISSプログラムマネージャや理事等を歴任

<https://iss.jaxa.jp/astro/wakata/>

古川宇宙飛行士について



古川聡
博士(医学)

- 2回目の宇宙飛行（長期滞在は2回目）
1999年、飛行士候補者として選定、前職は医師
(参考) 1回目：2011年、ソユーズ搭乗、
ISS長期滞在、宇宙医学実験等の実施
※この後、JAXA宇宙医学生物学研究グループ長として、
宇宙医学研究を先導

<https://iss.jaxa.jp/astro/furukawa/index.html>



両飛行士の文科大臣表敬
(令和2年12月15日)

日米間の月周回有人拠点ゲートウェイ了解覚書（MOU）署名

日米両国代表による署名ののち、2020年12月31日、日米間の月周回有人拠点ゲートウェイ了解覚書(MOU)が発効。本MOUは、同年7月に文部科学大臣とNASA長官間で署名された「月探査協力に関する共同宣言（JEDI）」の協力内容の実現を可能とする法的枠組みで、以下の内容が合意されている。

- 日本側の貢献として、以下を提供。

- ① 居住の能力に係る基盤的機能
- ② ゲートウェイへの物資補給

- 米国側からは日本に対して、以下を提供。

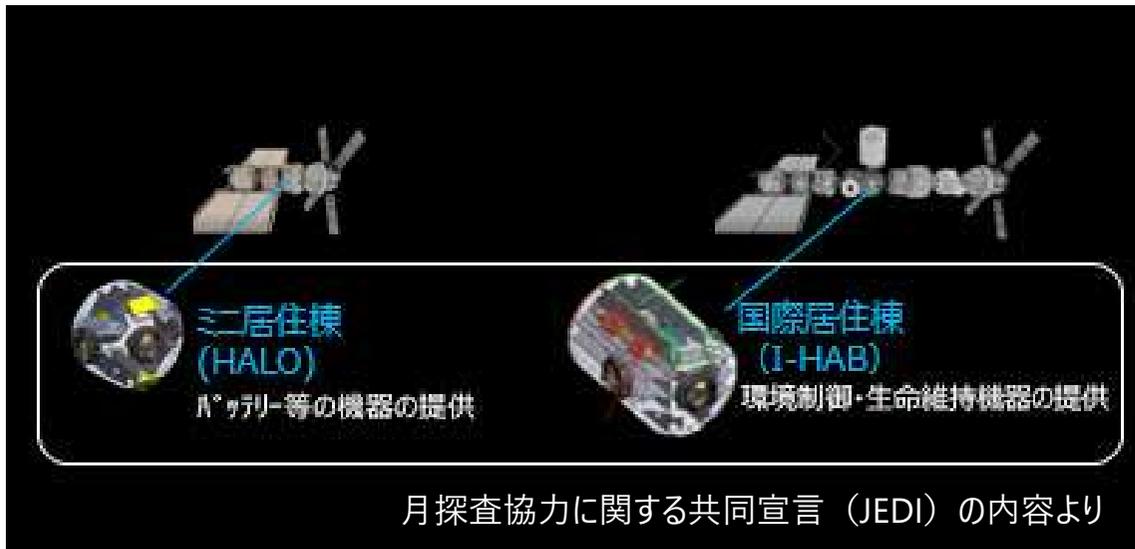
- ① ゲートウェイの利用機会
- ② 日本人宇宙飛行士のゲートウェイ搭乗機会

※日本の貢献内容や日本人宇宙飛行士のゲートウェイ搭乗機会の詳細については、本MOUの下に別途定める実施取決め（Implementing Arrangement）にて規定する。



1月16日にオンライン開催された「日米宇宙航空協力セミナー2021～アルテミス時代の幕開け」にて、ゲートウェイMOU署名に関して祝辞を述べる杉山在米大使

ゲートウェイ居住能力（HALOやI-Hab）へ基盤的機能を提供



HTV-Xによるゲートウェイへの物資輸送構想

